

山口における高杉晋作と人物エピソード

高杉晋作は1839年、萩の高杉家(二百石)の嫡男として生まれました。吉田松陰の松下村塾に学び、四天王の一人と呼ばれました。1860年、井上家(二百五十石)の次女マサと結婚。1861年、幕府施設随員として上海へ渡航。欧米列強の脅威を目の当たりにし、大きな影響を受けました。その後、桂小五郎や久坂玄瑞たちと共に尊攘運動に加わり、1862年、江戸で建設中の英国公使館を焼き討ちしています。1863年、方針をめぐって仲間と違い、隠遁を決意。十ヶ年の暇をもらって萩に戻りました。そのころ長州藩は攘夷を決行、下関で外国船に砲撃をくりかえしました。やがて外国船が報復に来て、砲撃されました。そこで藩主は晋作を山口に呼び出しました。

〈晋作と奇兵隊〉

晋作が山口に出てきた6月5日、下関が再び外国船に襲われ、予想と違って藩兵は散々に負けました。藩主以下藩の首脳陣の頭は真っ白。そこへ晋作が奇兵隊の創設を建言しました。藩主は大喜びして下関防衛を晋作に任せました。この対面が行われたのが中河原にあった御茶屋です。奇兵隊は山口で生まれたともいえます。その後、下関で結成された奇兵隊は、トラブルを起こすので、秋穂二島へ移るよう命じられました。9月5日、晋作は奇兵隊を連れて下関を出航、秋穂二島の寺に入りました。裏山に登れば海や川が監視でき、外国船が山口に進入してきたらすぐにわかる場所です。晋作は秋穂移陣の仕事を最後に、奇兵隊から離れます。奇兵隊との関係は山口で生まれ、山口で終わりました。



奇兵隊、秋穂移陣



奇兵隊創設進言

〈晋作と井上聞多(馨)〉

晋作と聞多は、ともに英国公使館を焼き討ちした仲です。その後、聞多は英国へ留学。戻ってきたのは下関戦争の直前です。外国艦隊との和議をすすめる聞多は裏から手を回して、当時脱藩の罪で罪人だった晋作を萩から引っ張り出しました。二人で和議を推進していたときのこと。小郡の役所で会議していたら、同席した上司達が和議に抗戦だとコロナ意見を交えるので、聞多が激怒し切腹して死をもって抗議しようとするのを、晋作が必死に止める一幕もありました。その後、聞多が保守派の人に斬られまくるも奇跡的に助かったことがあり、湯田の家で養生していたら、晋作がこっそりと見舞いに来ました。そのとき漢詩を詠み合って励まし合っています。



聞多を見舞う



聞多の切腹を止める

〈晋作と妻おマサ〉

晋作は結婚以来も単身赴任、出張などで、なかなか妻と一緒にいる時間がありませんでした。二人の結婚生活は断続しており、一緒に暮らしたのは5回です。6年半の間に正味2年の同居でした。ほとんどが萩でのことですが、4回目のときだけが山口での生活でした。藩庁に勤めることになった晋作とともに4ヶ月間、山口町奉行に就任した井上平右衛門(マサの父)の借家の離れを借りて、下女一人雇った暮らしました。晋作は家ではうるさいこともいわず、叱ったこともなく、おだやかな夫だったようです。山口での晋作は、穏やかな時間を過ごしていた、マサの懐妊という嬉しい事もありました。このときの日々が、晋作の人生で、最後の平和なときでした。



妻とのラブラブ生活

第五回地酒の楽校 らびらびお先に桜を味わう会 桜酵母のお酒飲みへんげ

2月22日夜、「第五回山口地酒の楽校 ひとあし御先に桜を味わう会」桜酵母のお酒飲みくらべ」を開催しました。県外市外からの人もふくめ、59人に参加いただきました。ありがとうございます。

5回目となった今回は、日本で初めて、山口県で開発された桜酵母について学びました。

講師は柏木享さん。桜酵母の開発を推進された、産みの親です。県産業技術センター在籍時に、宇部高専等の協力を得て、平成11年から2年かけて、酵母がとれる桜を探して、ようやく見つけて、商品化にこぎつけられました。

現在、桜酵母をつかった8種類の酒が造られています。これだけの種類は現在でも山口県だけです。我が県の特産品ですね。

五十音順に紹介しますと、

- ・花音(かのん)【榊永山本家酒造場】
 - ・黒まいん【南堀江酒場】
 - ・黒まいん湧泡【南堀江酒場】
 - ・さくらさくら【榊崎酒造】
 - ・桜のしずく【八千代酒造】
 - ・花かおり【榊山本店】
 - ・花ならつぼみ【酒井酒造(株)】
- また、焼酎も造られており、花咲じい【永山酒造(名)】

試験していただいたところ、桜をイメージした甘口でアルコール度の低い酒が多かったです。とくに女性から好評でした。日本酒の販売量が全国的に減っているなかで、山口県は珍しく増えています。それは地元酒蔵各社がこのように、新しい取り組みに積極的なことも原因の一つだともいえました。



会場風景。講師による説明が最初にありました。



桜酵母のお酒、勢揃い。

東日本復興支援チャリティコンサート アイノウタ

3月8日(土) 18時半より大広間で開催しました。震災から3年。被災された方々に思いを寄せ、あらためて復興を祈る会になりました。

最初に登場したのは、アコースティック・デュオのべすばです。日常のふとした小さな感動を切り取ったようなすてきな詩を、キーボード・ベース・ウクレレなどいろんな音色で彩って…。

べすば



きらっとグレイス

最後に登場は、シャンソンのきらっとグレイスのみなさんです。会場のみなさんといっしょに歌ったり、シャンソンの名曲に合わせてダンスのパフォーマンスを披露したり、楽しく元気がでるステージを演出してくださいました。きらっとグレイスのお一人でもあり、中原中也記念館名誉館長の福田百合子さんがとくべつに前説をしてくださり、軽妙なトークで会場に笑いと感動を添えてくださいました。みなさんの熱演で集まった支援金は、**52,400円**となりました。本当にありがとうございます。これから全額福島県の「ふくしまこども寄附金」に送ります。これからも菜香亭は東北を応援していきますので、みなさまの協力をお願い致します。

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成26年3月29日発行
第32号
発行元: 山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成26年3月29日発行
第32号
発行元: 山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会